

1. 介護助手について

● 介護助手とは

介護職未経験者、または経験者であっても介護関連の資格を有していない者で、介護施設等で、身体介護を行わない周辺業務に従事する者のことを称します。

● 介護助手の主な業務内容

食事関連業務	テーブル拭き、エプロン・おしぼりの配布、コップ洗浄、口腔ケア用品の洗浄、お茶入れ、食事の盛りつけ、配膳、下膳、残菜の片付け、椅子の整理、食器洗いなど
入浴関連業務	浴槽・浴室の清掃、入浴準備、入浴衣類の準備など
排泄関連業務	おむつ等のゴミ捨て、ポータブルトイレの掃除、清拭用具の準備、使用済排泄用品の破棄、排泄物の処理など
リネン交換関連業務	ベッドメイク、リネン交換、包布交換、利用者の洗濯物の片付け、備品の交換補充、ベッドパッドの回収・乾燥・取替
居室清掃関連業務	ベッド下・周辺の掃除、消毒薬による床清掃、ドアノブ等の消毒清掃、窓枠・ガラス清掃、床頭台清掃、コップ洗浄、トイレの清掃、ゴミ処理、加湿器への水入れ、車椅子掃除
清掃関連業務	共用スペース、職員用スペース、共有トイレの清掃、施設廻りの清掃、使用物品の設置・補充、ゴミの回収・破棄、ユニット共有部分の清掃
洗濯関連業務	洗濯、乾燥、洗濯機・乾燥機の清掃、衣類の補修、衣類の畳みと仕分け
送迎関連業務	送迎車両の運転のみ
修繕関連業務	車椅子・介護機器の修繕及び保守、施設設備・電気等の営繕
備品等関連業務	備品・消耗品の管理及び発注、防災備蓄品の管理

● 介護助手採用のメリット

これまで介護職が全てになっていた業務を、介護職が担う業務と介護助手が担う周辺業務に区分することで、次のメリットが期待できます。

- 介護士が雑務から解放されて、利用者サービスが充実します。
- 利用時間内に周辺業務も終わらせることができます。
- 残業時間の削減が可能です。
- 事業所内の普段手が回らなかった箇所や機器の整理・整頓が進みます。
- 結果として、介護職員の離職率低下につながります。
- 将来の介護士候補としての期待も…。

● 介護助手のなり手はどんな人

介護助手の業務は、1日3～4時間、週2～3日勤務などで区分でき、フルタイムを希望しない中高年齢者や子育て世代の女性などが担い手として期待されます。また、障害者就労支援施設やシルバー人材センターに委託することも可能です。

2. 賃金の助成について

モデル事業所選定後、県から案内が別途あり、申請書や報告書の提出が必要となります。

※補助基準額(時給)は930円以内、最大3ヶ月の期間で2人分までを助成します。

※雇用契約書または条件通知書の写しの提出も必要です。

3. 採用活動及び支援について

- モデル事業所に選定された後、お近くのハローワーク及び
沖縄県福祉人材研修センターに求人票を提出していただく必要があります。

※その際、職種欄には「介護助手」と明記してください。

※求職者からの問合せや職場見学、面接等はモデル事業所での対応となります。

- 当センターでは次の支援を行います。

- 統一チラシ作成による、事業所周辺エリアへの新聞折込やポスティングの実施
- 沖縄県人材研修センターに登録されている介護関係研修修了者への求人情報の案内
- 採用後、希望する事業所での介護講習の実施

4. おもな質問事項

Q 介護助手の業務に一部身体介助を含めてよいか？

A モデル事業実施期間中は含めてはいけません。事業終了後に、本人の同意を得た上で含めることは問題ございません。

Q 以前から介護助手として勤務している者も対象としてよいか？

A 令和2年4月以降に採用した方を対象としますが、モデル事業所選定以降の採用を優先とします。

Q 人員配置や処遇改善の対象となりますか？

A 人員配置にはカウントできず、また、処遇改善加算も対象となりません。

5. 介護助手導入成功の秘訣

イ. 導入目的の明確化と受け入れ体制づくり

- ① 介護助手を導入する目的を明確化する
- ② 職場内の受け入れ態勢を整える
- ③ 事業所内のすべての職員へ①と②を理解させる

ロ. 業務の切り出しと導入イメージを設定する

- ① 普段の業務を振り返り、「周辺業務」を切り出す
- ② 介護助手導入後のイメージをする
- ③ 費用対効果を考える

ハ. 振り返り・改善

- ① 業務内容の見直しを適宜する
- ② 改善は、介護福祉士等の手離れ感を貴重な判断要素とする
- ③ 施設内環境や機器の整備・美化など今までやれなかった業務を追加
- ④ 勤務時間帯や曜日の見直しを介護助手の同意を得て行う

